浅間山の雑木林について

ー植物を中心にー

東京私立初等学校協会理科部会
親子で自然を楽しむ会

かつて関東地方の台地やその周りの丘陵地には、コナラ、クヌギ、クリ、ヤマザクラ、イヌシデなどの冬に葉を落とす落葉広葉樹からなる林が広く見られました。このうち、東京都と埼玉県に広がる武蔵野（台地）とまわりの丘陵に見られる林を武蔵野の雑木林と呼んできたのです。

この武蔵野の雑木林は自然林（人の手の入っていない林）と思われがちですが、自然林が伐採された後にできる二次林と呼ばれる林の一つで、炭や薪に使うために１５～２５年に１回伐採されてきた林です。その後は切り株から出てくる芽を育ててまた元の林に戻していたのです。また、この林は、毎年のように下草刈りや落ち葉かきをして農業などに利用してきました。このように、武蔵野の雑木林は人が自然を利用しながら残してきた代表的な林といえましょう。

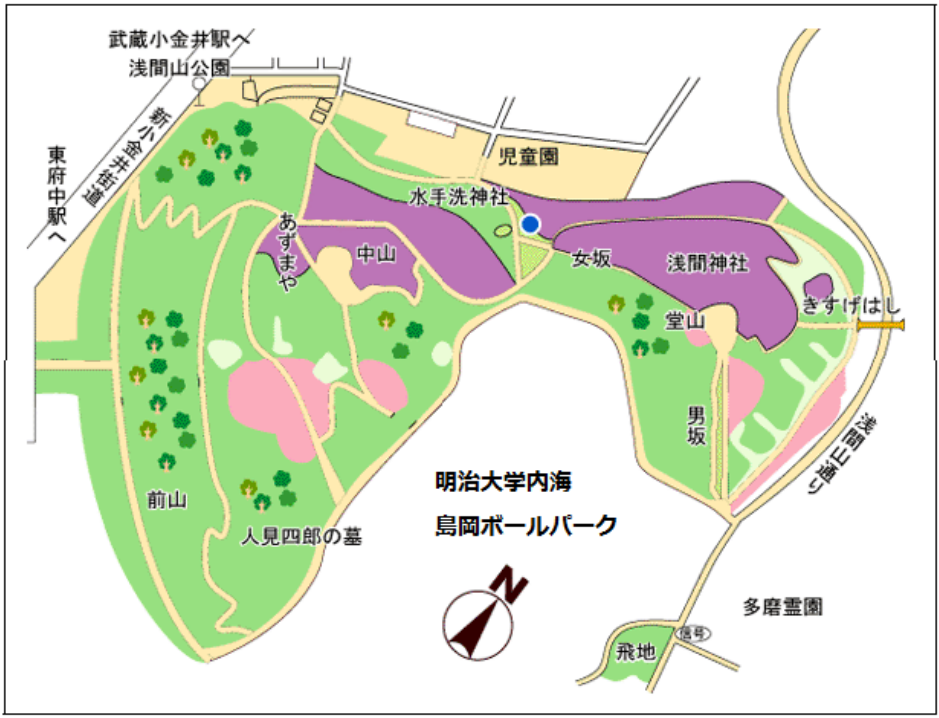
このような、コナラ、クリなどの落葉広葉樹からなる雑木林は、関東地方だけでなく北海道南部から九州までの人里に近い海抜の低いところに広く見られます。海抜の高いところでは、林を被う木がコナラからミズナラに変わります。

さて、かつて武蔵野に広く見られた雑木林は、１９６０年前後から急速に減り始めました。その理由は、東京を中心とする都市が郊外にまで広がって、住宅地や工場地が次々と開発されたためです。また、田畑に使う肥料が、落ち葉などを腐らせて作った堆肥などから化学肥料を多く使うように変わったことや、燃料が炭や薪から石油やガスに変わってきたために、雑木林の利用価値が少なくなってしまったことも大きく関係しています。最近では東京近郊の台地上でまとまった広がりのある雑木林は数えるほどしかなくなってしまいました。

そうした中で、雑木林がまとまった広がりを持ち、管理のよい状態で残されているのが今回観察する浅間山です。

浅間山は武蔵野台地の中でただ一つの小高い丘になっているところです。周りの台地とはちがう多摩丘陵などと似た地層からできています。これは、大昔の多摩川やほかの川によって周りがけずりとられ、孤立した丘となって残されたものと考えられています。こういう丘は武蔵野台地の中ではここしかありません。

この山は、南から北へ前山、中山、堂山の３つの山からなっていて、一番高いのが堂山（標高約８０m）です。まわりの台地より約３０m高いだけですが、四方にさえぎるものがないので、展望は非常によくなっています。



さて、今回の浅間山での観察会で皆さんに見ていただきたいポイントを書いておきましょう。

［樹皮で見分ける樹木の種類］

浅間山の雑木林で一番多い木はコナラです。その次がクヌギ。このほかヤマザクラ、イヌシデなどもよく見られます。また、この４種類よりも少し低い木ですが、エゴノキも多く見られます。これらの木は樹皮（木の皮）に特徴があるので、大きな木ではそのちがいで見分けることができます。もちろん、葉の形のちがいでも見分けることができます。

［新緑の季節にみられる草木の花］

武蔵野の雑木林では、４月から５月にかけての新緑の季節にたくさんの草木の花を見ることができます。花が終わっているものもあるかもしれませんが、代表的なものをいくつかあげておきましょう。

エゴノキ

キンラン

ササバギンラン

ギンラン

ミツバツチグリ

サワフタギ

カマツカ

ニガナ

［浅間山だけに見られるムサシノキスゲ］

浅間山は、ここだけに自生するムサシノキスゲがあることでも知られています。ユリ科、ワスレグサ属に分類される多年草で、寒冷期に平地に下りたのち、温暖化にともなってここだけに取り残されたニッコウキスゲの平地型とされていますが、学名もついておらず、はっきりとわかっていません。花は淡い 橙 色で、すてきな芳香があり、３～６つの花が５月 上 旬 から下旬に開きます。花は６つにわかれ、花型は、ニッコウキスゲというよりむしろノカンゾウに近く、葉は細長く８月には枯れ始めます。

ムサシノキスゲが群生する斜面は定期的に刈払いされ、地元の有志によって保護活動が行われています。

ムサシノキスゲ

［管理の有無による林の様子のちがい］

浅間山の雑木林は、全体的にはよく管理されている林ですが、場所によってその程度は少しずつちがいます。管理をしているところとしていないところでは林の中の様子がかなりちがうので、それを観察するのもおもしろいと思います。

下草刈りや落ち葉かきなどの作業をしてよく管理されている林には、春から秋にかけて多くの草花を見ることができます。これは、下草や低木を刈り取るために林の中が明るくなること、また落ち葉かきをすることで土の表面が出てくるので、背丈の低い草などが発芽したり成長したりする条件がよくなるためだと考えられます。

一方、このような管理をしなくなると、しばらくしてササ（この地方ではアズマネザサ）がびっしりと生えてきて、そのうち、樹木ではアオキやヒサカキ、ヤブツバキなど、草ではヤブコウジやオオバジャノヒゲといったような日当たりが悪くても成長していけるような植物で被われるようになり、林の中にはかんたんに入り込めないようになります。こうした林は長い年月をかけて、この地方の自然林であるシイやカシ（シラカシ、アラカシなど）の林に変わっていきます。

下の写真にもありますが、実際に歩いてみて、皆さんはどちらの林を気持ちがいいと感じるでしょうか。

管理されている林　　管理されなくなった林

雑木林は春だけでなく、夏、秋、冬それぞれに美しい姿を見せてくれて、とても気持ちのよい林です。それぞれの季節に、またぜひ訪れてみてください。

初夏

秋

冬